

ローコスト住宅で 後悔しない！

1000万円台で建てる
完全ガイド



ローコスト
ハウスメーカー
8社を徹底比較

安い=危険は誤解

坪単価30万円台から建てる！

失敗事例8選と成功の5つの鉄則

服部 遼太 著

※本書は、PDF 特典として再編集したものです。

はじめに

本書を手にとったあなたへ

「マイホームが欲しい。でも、予算は限られている……」

もしかすると、あなたは今、そんな悩みを抱えているのではないのでしょうか。

住宅情報サイトで物件を眺めては、価格の高さにため息をつく。ハウスメーカーのモデルハウスを見学しては、「こんな家、自分には無理だ」と諦めかける。そんな日々を送っているかもしれません。

そんなあなたに、一つの選択肢として注目してほしいのが「ローコスト住宅」です。

ローコスト住宅とは、坪単価 30 万円～60 万円程度、総額 1,000 万円台から建てられる注文住宅のことです。一般的な

注文住宅の坪単価が 70 万円～80 万円であることを考えると、約半額近い価格で夢のマイホームが手に入る計算になります。

「でも、安いってことは何か問題があるんじゃないの？」「ローコスト住宅って、住んでみたら後悔するんじゃない？」

そう思う気持ち、とてもよく分かります。実際、私がこれまで取材してきた中でも、ローコスト住宅を建てて後悔している方は少なくありません。

なぜローコスト住宅で後悔する人が多いのか

神奈川県在住の A さん(30 代・会社員)は、27 歳のときにローコスト住宅を建てました。総額 1,800 万円、坪単価は約 50 万円。予算内に収まり、当初は大満足だったそうです。

しかし、住み始めて 3 年後、A さんは私にこう打ち明けました。

「冬になると、朝起きるのが本当につらいんです。リビングは暖房をつけているから暖かいんですけど、廊下や脱衣所が寒くて寒くて……。妻からは『こんなに光熱費がかかるなら、最初からもう少しお金をかけて断熱材をグレードアップすればよかった』と毎年言われます」

A さんが選んだローコスト住宅は、確かに建築費用は安く抑えられました。しかし、そのために断熱材のグレードを最低限に設定していたのです。結果として、冬場の暖房費が月に 3 万円を超えることも珍しくなく、30 年間で計算すると、断熱材をグレードアップした場合との差額が 400 万円以上になるという試算も出ました。

「目先の 100 万円をケチったせいで、長期的には数百万円も損をしている。これなら最初から断熱性能にお金をかけておけばよかった……」

これが、Aさんの後悔です。

では、ローコスト住宅は選んではいけないのでしょうか？

答えは「NO」です。

実は、ローコスト住宅で満足している人も、たくさんいます。後悔している人と満足している人の違いは、たった一つ。

「何にお金をかけるべきか」「何を妥協してもいいのか」を正しく理解していたかどうか

この違いだけなのです。

「安い＝危険」ではない。正しい知識があれば大丈夫

千葉県在住の B さん(30 代・夫婦+子ども 2 人)は、総額 1,500 万円でローコスト住宅を建てました。B さんは建てる前に、こう考えたそうです。

「うちは料理をほとんどしないから、キッチンが標準仕様で十分。でも、子どもが小さいから床暖房だけは絶対に欲しい。あと、断熱性能は妥協したくない」

その結果、B さんは以下のような選択をしました。

- ・ キッチン設備：標準仕様のまま（節約：約 50 万円）
- ・ 外壁材：高級なものは選ばず標準仕様（節約：約 30 万円）
- ・ 浮いた予算で断熱材をグレードアップ（追加：約 60 万円）
- ・ 1 階のみ床暖房を設置（追加：約 30 万円）

「最初は『あれもこれも欲しい』って思ってたんですけど、予算との兼ね合いで優先順位をつけたら、意外とスッキリ決まりました。住んでみて5年経ちますが、冬でも家全体が暖かくて快適です。光熱費も想定より安く済んでいるので、本当に満足しています」

BさんとAさんの違いは何だったのでしょうか。

Bさんは事前に情報収集を徹底し、「自分たちの暮らしに本当に必要なもの」を見極めたのです。ネットで後悔事例を30件以上読み、実際にローコスト住宅に住んでいる知人に話を聞き、複数のハウスメーカーで見積もりを取って比較しました。

一方、Aさんは「とにかく安く建てたい」という思いが先行し、長期的な視点が抜けていました。

この差が、「満足」と「後悔」を分けたのです。

本書の使い方

本書は、これからローコスト住宅を建てようと考えている初心者の方に向けて書きました。

住宅の知識がゼロでも大丈夫です。専門用語は極力使わず、使う場合は必ず分かりやすく説明します。難しい計算式も出てきません。

本書では、以下のような内容をお伝えしていきます。

第1章では、ローコスト住宅の基礎知識を解説します。なぜこんなに安く建てられるのか、その仕組みを理解することで、「安い=危険」という誤解を解きます。

第2章では、実際にローコスト住宅を建てた方の後悔・失敗事例を8つ紹介します。間取り、性能、仕上がり、オプション費用など、具体的な失敗例とその対策をセットでお伝えしま

す。この章を読むだけで、「これは絶対に確認しなきゃ」というポイントが明確になるはずです。

第3章では、それでもローコスト住宅を選ぶ価値がある理由を解説します。デメリットばかりではなく、メリットもしっかり理解することで、冷静な判断ができるようになります。

第4章では、ハウスメーカー・工務店の選び方を具体的に解説します。坪単価が安い順に TOP8 のメーカーを紹介し、それぞれの特徴や保証内容もまとめています。

今日から始める第一歩

この本を読み終わるころには、あなたは「ローコスト住宅で後悔しないための知識」を一通り身につけているはずです。

もちろん、読んだだけで完璧な家が建つわけではありません。
大切なのは、本書で得た知識をもとに、実際に行動を起こす
ことです。

まずは、気になるハウスメーカーのホームページをしてみる。
資料請求をしてみる。モデルハウスを見学してみる。

小さな一歩で構いません。その一歩が、あなたの理想のマイ
ホームへとつながっていきます。

予算が限られているからこそ、賢く、戦略的に家づくりを進め
ましょう。

本書が、あなたの夢を叶えるための道しるべとなれば、これ以
上の喜びはありません。

それでは、一緒にローコスト住宅の世界を見ていきましょう。

目次

はじめに.....	1
本書を手にとったあなたへ.....	3
なぜローコスト住宅で後悔する人が多いのか.....	4
「安い=危険」ではない。正しい知識があれば大丈夫.....	7
本書の使い方.....	9
今日から始める第一歩.....	10
第1章：ローコスト住宅の真実～「安い=危険」は本当か？.....	18
1-1. そもそもローコスト住宅とは何なのか.....	18
坪単価 30 万円～60 万円の世界.....	19
総額 1,000 万円台でマイホームが手に入る.....	20
一般的な注文住宅との価格差.....	21
1-2. なぜこんなに安く建てられるのか.....	22
理由①：規格化・マニュアル化による効率化.....	23
理由②：資材や設備のグレード調整.....	26
理由③：広告費の徹底削減.....	29
安さの裏にある企業努力.....	32
1-3. ローコスト住宅は本当に「恥ずかしい」のか.....	33
見た目で分かってしまう 3 つの特徴.....	33

周囲の家との比較で感じる違和感.....	36
実際の居住者の声	37
「恥ずかしい」と感じる必要はない	39
第2章：【実録】住んでみて分かった後悔・失敗事例8選	42
2-1. 失敗事例①：間取りの制限で後悔.....	43
なぜ間取りの制限が問題になるのか	43
【実例】リモートワークスペースが確保できなかった.....	44
その他の間取り失敗例	46
対策：規格の自由度を事前確認する	47
2-2. 失敗事例②：性能の低下で後悔	50
なぜ性能が重要なのか	50
【実例】断熱性能をケチって、光熱費が年間 20 万円増.....	51
その他の性能低下による失敗例	53
対策：明細見積書で資材の詳細を確認	54
2-3. 失敗事例③：安っぽい仕上がりで後悔	57
なぜ安っぽく見えるのか	57
【実例】周囲の家と比べて「安そう」と感じた.....	58
その他の「安っぽい仕上がり」事例	59
対策：施工事例の確認と内覧会参加	60
2-4. 失敗事例④：オプション費用で後悔	62

なぜオプション費用がかさむのか	63
【実例】キッチンにこだわって予算オーバー	63
その他のオプション費用の失敗例	65
対策：譲れないラインを事前に決める	66
2-5. 失敗事例⑤:後悔ポイントの見逃し	70
なぜ見逃しが起こるのか	70
【実例】耐震性能を確認していなかった	70
その他の見逃し事例	72
対策:チェックリストの作成と複数比較	72
2-6. 失敗事例⑥:アフターサービスの不安	75
なぜアフターサービスが重要なのか	75
【実例】保証期間が3年しかなかった	76
その他のアフターサービス不安事例	77
対策:瑕疵担保責任保証の内容確認	78
2-7. 失敗事例⑦:騒音の問題で後悔	80
なぜ騒音が問題になるのか	80
【実例】隣の子どもの声が響いて気になる	81
その他の騒音問題事例	82
対策:遮音・防音対策の事前確認	83
2-8. 失敗事例⑧:住み心地の不満が積み重なる	85
なぜ不満が積み重なるのか	85
【実例】新築ブルーに陥ってしまった	86

新築ブルー・マイホームブルーとは	87
------------------------	----

対策:100%の満足は難しいと割り切る	88
---------------------------	----

第3章:それでもローコスト住宅を選ぶ価値がある理由 93

3-1. ローコスト住宅の4つのメリット	94
----------------------------	----

メリット①:低価格でこだわり部分にお金をかけられる	94
---------------------------------	----

メリット②:工期が短く約3ヶ月で完成	98
--------------------------	----

メリット③:住宅ローンが組みやすく返済負担が軽い	102
--------------------------------	-----

メリット④:将来的にリフォーム・建て替えしやすい	105
--------------------------------	-----

3-2. どんな人にローコスト住宅が向いているか	109
--------------------------------	-----

①短期で家を建てたい人	109
-------------------	-----

②建売より自由度がほしい人	110
---------------------	-----

③住宅ローンの返済負担を減らしたい人	111
--------------------------	-----

④若い世代で予算が限られている人	112
------------------------	-----

3-3. 実際の成功事例に学ぶ	114
-----------------------	-----

【成功事例①】 27.5坪の平屋で1,332万円(2人暮らし)	115
---------------------------------------	-----

【成功事例②】 36坪の2階建てで1,000万円~1,500万円(3人家族)	118
--	-----

成功者が実践した3つのポイント	121
-----------------------	-----

第4章:後悔しないハウスメーカー・工務店の選び方.. 124

4-1. 絶対に比較すべき5つのポイント	125
----------------------------	-----

①予算内に収まるか(坪単価と総額の罠)	125
---------------------------	-----

②間取りや広さは十分か(規格住宅 vs 自由設計)	128
---------------------------------	-----

③こだわり条件は叶えられそうか(標準仕様とオプション)	132
④アフターサービスと保証内容はどうか	136
⑤得意分野や過去の実績はどうか	139
4-2. おすすめローコストハウスメーカーTOP8	142
【1位】 タマホーム:坪単価約 61 万円	142
【2位】 アイダ設計:坪単価約 74.9 万円	145
【3位】 アイフルホーム:坪単価約 64.7 万円	147
【4位】 ユニバーサルホーム:坪単価約 69.1 万円	149
【5位】 富士住建:坪単価約 67.7 万円	152
【6位】 アエラホーム:坪単価約 64 万円	154
【7位】 ヤマダホームズ:坪単価約 65.9 万円	156
【8位】 桧家住宅:坪単価約 86.7 万円	158
4-3. 営業担当者との相性が成功のカギ	160
なぜ営業担当者が重要なのか	160
【実例】 担当者を変えてもらって大成功	162
良い担当者の見極め方 5 つ	163
担当者は基本的に選べない	164
おわりに	167
ローコスト住宅は「選択肢」のひとつ	168
完璧な家は存在しない	169
あなたの優先順位を大切に	171

今日から始める第一歩	172
複数社から見積もりを取ることの重要性	175
効率的に複数社の見積もりを取る方法.....	178
一括見積もりサービスを活用しよう.....	179
実際に使った方の声	181
最後に:あなたの家づくりを応援しています	182

第1章：ローコスト住宅の真実～ 「安い＝危険」は本当か？

1-1. そもそもローコスト住宅とは何なのか

「ローコスト住宅って、具体的にどれくらいの価格なんですか？」

住宅展示場で、初めてローコスト住宅について相談に来た方から、よくこんな質問を受けます。

結論から言うと、ローコスト住宅とは「坪単価 30 万円～60 万円程度、総額 1,000 万円台から建てられる注文住宅」のことです。

もう少し具体的に見ていきましょう。

坪単価 30 万円～60 万円の世界

一般的な注文住宅の坪単価は、70 万円～80 万円程度が相場です。これに対してローコスト住宅は、坪単価 30 万円～60 万円。つまり、半額近い価格でマイホームが建てられる計算になります。

例えば、延床面積 30 坪(約 100 m²)の家を建てる場合で比較してみましょう。

【一般的な注文住宅の場合】

- ・ 坪単価 75 万円 × 30 坪 = 2,250 万円 (建物本体価格)
- ・ 付帯工事費・諸費用 (総額の約 30%) = 965 万円
- ・ 総額 : 約 3,215 万円

【ローコスト住宅の場合】

- ・ 坪単価 50 万円 × 30 坪 = 1,500 万円（建物本体価格）
- ・ 付帯工事費・諸費用（総額の約 30%）= 643 万円
- ・ 総額：約 2,143 万円

その差、なんと 1,072 万円。

同じ 30 坪の家でも、1,000 万円以上の差が出るのです。これは驚きですね。

総額 1,000 万円台でマイホームが手に入る

さらに、超ローコスト住宅と呼ばれる住宅では、坪単価 30 万円程度のプランもあります。

30 坪の家なら、建物本体価格は 900 万円。付帯工事費などを含めても、**総額 1,300 万円前後**でマイホームが実現できる計算です。

「本当にそんな価格で家が建つの？」と疑問に思うかもしれません。

実際に、アイダ設計の「BRAVO minimal plus」という規格住宅は、**888 万円**というプランを提供しています(2024 年時点)。タマホームでも 2023 年に限定 250 棟で、**900 万円台の 4LDK2 階建て**を販売しました。

これらは本当に実在するプランであり、決して怪しい話ではありません。

一般的な注文住宅との価格差

では、この価格差はどこから生まれるのでしょうか。

「安いということは、何か削られているんでしょう？」という不安、ごもっともです。

実は、ローコスト住宅が安い理由は、主に3つあります。それを次の項目で詳しく見ていきましょう。

ここで大切なのは、「安い=手抜き」ではないということです。

多くのローコストハウスメーカーは、企業努力によってコストを下げています。違法建築や手抜き工事をしているわけではありません。この点は、まず最初に理解しておいてください。

1-2. なぜこんなに安く建てられるのか

「どうやってこんなに安くできるんですか？何か裏があるんじゃないですか？」

埼玉県在住の C さん(20 代・会社員)は、初めてローコストハウスメーカーの見積もりを見たとき、こう不安になったそうです。

結論から言うと、ローコスト住宅が安い理由は「企業努力によるコストカット」です。具体的には、①規格化・マニュアル化、②資材・設備のグレード調整、③広告費の削減、この 3 つが主な要因です。

それぞれ詳しく見ていきましょう。

理由①：規格化・マニュアル化による効率化

あなたは、マクドナルドでハンバーガーを注文したとき、「どうしてこんなに早く出てくるんだろう」と思ったことはありませんか？

答えは簡単です。作り方がマニュアル化されているからです。

ローコスト住宅も、これと同じ仕組みです。

一般的な注文住宅では、お客様ごとに設計図を一から作ります。間取りもデザインも、すべてオーダーメイド。当然、設計にかかる時間も人件費もかかります。

一方、ローコスト住宅では、あらかじめ用意された設計図のパターンから選ぶ方式が多いのです。

例えば、こんな感じです。

- ・ 間取りパターン：A（3LDK）、B（4LDK）、C（2LDK+書斎） など
- ・ 外観デザイン：シンプル、モダン、和風など数パターン

- ・ 設備：キッチン、バスルーム、トイレなど、メーカー指定の中から選択

こうすることで、以下のようなメリットが生まれます。

【設計の効率化】 共通の設計図を使うので、設計にかかる時間が大幅に短縮されます。通常 3 ヶ月かかる設計期間が、1 ヶ月で済むこともあります。

【資材の大量発注】 同じ資材を大量に発注できるため、仕入れ価格を抑えられます。例えば、フローリング材を 1 棟分だけ買うより、100 棟分まとめて買う方が、1 m²あたりの単価が下がるのです。

【プレカット工法の導入】 木材を工場であらかじめ加工してから現場に運ぶ「プレカット工法」を採用しています。現場での作業時間が短縮され、人件費も削減できます。

【作業のマニュアル化】 施工の手順をマニュアル化することで、職人の技術レベルに左右されにくくなります。ベテランでなくても、一定の品質を保てるのです。

静岡県の工務店で働くDさん(大工・40代)は、こう話します。

「昔は、一つ一つの家で図面を見ながら『この柱はどう切るか』『この接合部はどうするか』って考えながら作業していました。でも、プレカット工法だと工場で正確にカットされた材料が届くので、組み立てるだけ。作業時間が半分以下になりました」

これが、規格化・マニュアル化による効率化の実態です。

理由②：資材や設備のグレード調整

「グレードを下げるって、安物を使うってこと？」

そう思われるかもしれません。確かに、一部ではそういうケースもあります。しかし、多くの場合は「高級品を使わない」だけであって、「粗悪品を使う」わけではないのです。

具体例を見てみましょう。

【フローリング材の場合】

- ・ 一般的な注文住宅：天然無垢材（1 m²あたり 8,000 円～15,000 円）
- ・ ローコスト住宅：合成フローリング（1 m²あたり 3,000 円～6,000 円）

30 坪の家の床面積を約 100 m²とすると、この差だけで 50 万円～90 万円のコストダウンになります。

「でも、合成フローリングって安っぽいんじゃない？」

確かに、天然無垢材の質感には劣ります。しかし、最近の合成フローリングは技術が進化しており、見た目も機能性も十分なレベルです。日常生活で困ることはほとんどありません。

【キッチン設備の場合】

- ・ 一般的な注文住宅：有名メーカーの最新モデル（150万円～250万円）
- ・ ローコスト住宅：同メーカーの標準モデル（80万円～120万円）

ここで大切なのは、「同じメーカーの製品」だということ。ローコスト住宅だからといって、聞いたこともないメーカーの設備を使うわけではありません。

タカラスタANDARD、LIXIL、パナソニックといった信頼できるメーカーの製品を、型落ちや標準グレードで採用することでコストを下げているのです。

千葉県在住の E さん(30 代・主婦)は、ローコスト住宅に住んで 3 年になります。

「最初は『キッチンが標準グレードで大丈夫かな』って不安でした。でも、実際に使ってみたら何も問題なし。食洗機も付いているし、収納も十分。友人が来ても『このキッチン、使いやすいそうだね』って言われます。最新モデルとの違いって、正直よく分かりません(笑)」

つまり、必要十分な品質は確保されているということです。

理由③：広告費の徹底削減

テレビ CM で見かける大手ハウスメーカーの広告、印象的ですよね。有名俳優を起用し、感動的なストーリー仕立ての CM。しかし、あの CM 制作費と放映費、いくらかかっていると思いますか？

数千万円から、場合によっては億単位です。

さらに、住宅展示場にモデルハウスを建てる場合、1 棟あたり年間で数千万円、高い場合は 1 億円以上かかると言われて
います。

- ・ モデルハウスの建築費：3,000 万円～5,000 万円
- ・ 展示場の出展料（年間）：500 万円～1,500 万円
- ・ モデルハウスの維持費（年間）：200 万円～500 万円

これらのコストは、どこから回収されるのでしょうか？

答えは、あなたが支払う住宅価格に上乗せされているので
す。

一方、ローコストハウスメーカーは、こうした広告費を徹底的
に削減しています。

【ローコストハウスメーカーの広告戦略】

- ・テレビ CM は配信せず、Web や SNS 広告のみ
- ・住宅展示場には出展せず、自社の小規模なモデルハウスのみ
- ・口コミや紹介による顧客獲得に注力

神奈川県のローコストハウスメーカーで営業を担当する F さんは、こう話します。

「うちは住宅展示場に出展していません。その代わり、会社の敷地内に小さなモデルハウスを 1 棟だけ建てています。お客様には事前予約で見学していただく形です。これだけで年間 1,000 万円以上のコストが削減できます。その分、お客様への価格に還元しているんです」

つまり、広告費を削減した分、住宅の価格を下げているということです。

安さの裏にある企業努力

ここまで読んで、いかがでしょうか。

ローコスト住宅が安い理由は、決して「手抜き」や「違法行為」ではありません。**企業の創意工夫とたゆまぬ努力の結果**なのです。

もちろん、中には悪質な業者がいないわけではありません。しかし、それはローコスト住宅に限った話ではなく、高級住宅でも同じことです。

大切なのは、「なぜ安いのか」をしっかりと理解すること。そして、その理由が納得できるものかどうかを見極めることです。

1-3. ローコスト住宅は本当に「恥ずかしい」のか

「ローコスト住宅って、見た目ですぐ分かっちゃうんですよね？
恥ずかしくないですか？」

これは、ローコスト住宅を検討している方から、必ずと言って
いいほど受ける質問です。

結論から言うと、確かに「ローコスト住宅だと分かってしまう」
ケースはあります。しかし、工夫次第で十分にカバーできます
し、そもそも「恥ずかしい」と感じる必要はありません。

見ただ目で分かってしまう 3 つの特徴

正直にお伝えすると、ローコスト住宅には、外から見て分かる
特徴があります。

特徴①: 凹凸(おうとつ)のないシンプルな外観

ローコスト住宅の外観は、コストを抑えるために凹凸が少なく、シンプルな箱型になりがちです。

なぜかという、凹凸を作ると外壁材の面積が増え、施工の手間も増えるからです。シンプルな四角い形が、最もコストを抑えられるのです。

例えば、同じ床面積 100 m²の家でも、以下のような違いがあります。

- ・ シンプルな箱型：外壁面積 120 m²
- ・ 凹凸のあるデザイン：外壁面積 150 m²

外壁材が 1 m²あたり 5,000 円だとすると、その差は 15 万円。さらに施工費の差も加わるため、総額で 30 万円～50 万円の違いになります。

特徴②:窓の数が少なく、配置が均一

窓も、数が多いほどコストがかかります。また、大きさや形がバラバラだと、発注や施工が複雑になります。

そのため、ローコスト住宅では、窓の数を最小限に抑え、同じサイズの窓を規則的に配置することが多いのです。

特徴③:シンプルな外構(植栽が少ない、コンクリートのみなど)

外構工事も、費用を抑えるポイントの一つです。

立派な門柱、タイルを敷き詰めたアプローチ、豊富な植栽……こうした要素は、それぞれ数十万円単位でコストがかかります。

ローコスト住宅では、外構を最小限にして、コンクリート打ちっぱなしのみというケースも少なくありません。

周囲の家との比較で感じる違和感

「うちの周りは、みんな立派な家ばかりで……。うちだけ浮いてる気がする」

東京都在住の G さん(30 代・会社員)は、ローコスト住宅を建てた後、こう感じたそうです。

G さんが家を建てたのは、閑静な住宅街。周囲には坪単価 80 万円～100 万円クラスの注文住宅が並んでいます。外観にこだわった家、植栽が美しい家、タイル張りの外壁の家……。

そんな中で、G さんの家はシンプルな箱型、窓は均一配置、外構はコンクリートのみ。

「正直、最初は『失敗したかな』って思いました。でも、住んでいるうちに気にならなくなりましたね。中は自分たちの好きなように作ったし、快適だし。外から見た印象だけで判断するのって、意味ないなって」

Gさんの言葉には、重要なポイントが含まれています。

家は「見せるもの」ではなく「住むもの」だということです。

実際の居住者の声

ローコスト住宅に住んでいる方 100 人にアンケートを取ったところ、「外観を気にしている」と答えた人は約 30%でした。

一方、「全く気にしていない」と答えた人は約 50%。残りの 20% は「最初は気になったが、今は気にならない」という回答でした。

興味深いのは、「気にしている」と答えた人の多くが、建てた直後の 1 年間だけ気にしていたという点です。

群馬県在住の H さん(40 代・主婦)は、こう話します。

「最初は『あの家、ローコスト住宅だよな』って思われてるんじゃないかって、すごく気になってました。でも、実際には誰も気にしてないんですよ。ご近所さんとの付き合いも普通だし、子どもの友達が遊びに来ても『おしゃれな家だね』って言ってくれます。結局、気にしてたのは自分だけだったんだなって」

そうなんです。他人は、あなたが思うほど、あなたの家を見ていません。

それよりも大切なのは、あなた自身が満足できるかどうかです。

「恥ずかしい」と感じる必要はない

そもそも、なぜ「ローコスト住宅は恥ずかしい」と感じてしまうのでしょうか。

それは、「家の価格=ステータス」という価値観があるからです。しかし、本当にそうでしょうか？

年収 1,000 万円の人が 3,000 万円の家を建てるのと、年収 400 万円の人が 1,500 万円の家を建てるのと、どちらが賢い選択でしょうか。

答えは、どちらでもないです。大切なのは、自分の収入に見合った、無理のない家づくりをすることです。

住宅ローンで生活が苦しくなり、子どもの教育費を削り、老後の貯蓄もできない……。そんな状態で高級住宅に住んでいても、幸せとは言えませんよね。

一方、ローコスト住宅で毎月の返済負担を抑え、家族旅行を楽しみ、子どもの習い事にもお金をかけられる。こちらの方が、よほど豊かな生活ではないでしょうか。

家は、人生を豊かにするための「手段」であって、「目的」ではありません。

この視点を忘れないでください。

【第 1 章のまとめ】

ローコスト住宅は、坪単価 30 万円～60 万円、総額 1,000 万円台から建てられる注文住宅です。安い理由は、規格化・マニュアル化、資材・設備のグレード調整、広告費の削減という企業努力の結果であり、決して「手抜き」ではありません。

外観がシンプルになる、窓の配置が均一になるといった特徴はありますが、工夫次第でカバーできます。そして何より、「恥ずかしい」と感じる必要はありません。

大切なのは、自分の収入に見合った、無理のない家づくりをすること。そして、その家で家族が幸せに暮らせることです。

次の第 2 章では、実際にローコスト住宅を建てた方の後悔・失敗事例を詳しく見ていきます。「こんなはずじゃなかった」を防ぐために、ぜひ読み進めてください。

第2章：【実録】住んでみて分かった後悔・失敗事例8選

「実際に住んでみないと分からないことって、たくさんあるんです……」

これは、ローコスト住宅を建てて3年目の方が、私に打ち明けた言葉です。

モデルハウスを見学したときは「これで十分」と思っていた。契約のときも「予算内に収まった」と満足していた。でも、実際に住み始めてから、次々と問題が見えてきた――。

この章では、そんな「住んでみて分かった後悔・失敗事例」を8つ紹介します。

大切なのは、これらの失敗例を知ること、同じ轍を踏まないようにすることです。他人の失敗から学ぶことで、あなたの家づくりは確実に成功に近づきます。

それでは、一つずつ見ていきましょう。

2-1. 失敗事例①：間取りの制限で後悔

【結論】ローコスト住宅では間取りの自由度が低く、ライフスタイルの変化に対応できないケースがあります。

なぜ間取りの制限が問題になるのか

ローコスト住宅の多くは、コストを抑えるために「規格化されたプラン」を採用しています。

第 1 章でお伝えしたとおり、これは悪いことではありません。
規格化することで、設計費や施工費を削減できるからです。

しかし、問題は「規格が自分たちのライフスタイルに合わない」
場合です。

東京都在住の I さん(30 代・会社員)の事例を見てみましょう。

【実例】リモートワークスペースが確保できなかった

I さんは 2020 年、総額 1,600 万円でローコスト住宅を建てました。

当時、I さんは週 5 日、会社に通勤していました。そのため、
家に仕事スペースは必要ないと考えていたのです。

「3LDK で十分だと思っていました。子ども部屋を 2 つ、夫婦の寝室を 1 つ。リビングも広めにとって、収納もある。完璧だと思ったんです」

しかし、2020 年のコロナ禍をきっかけに、I さんの会社はリモートワークを導入。週 3 日は自宅で仕事をする事になりました。

「最初はダイニングテーブルで仕事をしていたんですが、子どもが帰ってくると集中できなくて。妻からも『ずっとリビングにいられると家事がしづらい』と言われてしまいました」

I さんは、子ども部屋の一部を仕切って仕事スペースにしようと考えましたが、選んだプランでは間取りの変更が一切できない仕様でした。

「担当者に相談したら、『このプランは壁の位置を動かさません』と言われて。リフォームするにしても 100 万円以上かかるなんて聞いて、諦めました」

結局、Iさんは寝室の片隅に小さなデスクを置き、そこで仕事をしています。

「まさか自分がリモートワークをするなんて、当時は想像もしていませんでした。もう少し柔軟に対応できるプランを選んでおけばよかった……」

その他の間取り失敗例

Iさんのような事例は、決して珍しくありません。

【事例 1】予備の部屋がなく、来客時に困る「親や友人が泊まりに来ても、泊まる部屋がなくて。リビングに布団を敷いていますが、正直気まずいです」(千葉県・30代女性)

【事例 2】仕切りがないオープンな間取りで、プライバシーがない「開放的な間取りに憧れて選んだんですが、子どもが大きくなってきたら『一人になれる場所がない』と言われて。パーティーションで仕切るしかありませんでした」(神奈川県・40 代男性)

【事例 3】収納スペースが足りない「部屋数は足りているんですが、クローゼットが小さくて。結局、リビングに収納家具を置くことになり、狭く感じます」(埼玉県・30 代女性)

対策：規格の自由度を事前確認する

では、どうすればこうした失敗を防げるのでしょうか。

対策①: 将来のライフスタイルをイメージする

今必要な部屋だけでなく、5 年後、10 年後を想像してください。

- ・子どもが成長したら、個室が必要になるか
- ・親が高齢になったら、同居の可能性はあるか
- ・リモートワークや副業をする可能性はあるか
- ・趣味の部屋が欲しくなる可能性はあるか

こうした視点で考えると、「今は必要ないけど、将来必要になるかも」という部屋が見えてきます。

対策②:間取り変更の可否を確認する

契約前に、以下の点を必ず確認しましょう。

- ・壁の位置を変更できるか
- ・部屋を仕切ることができるか
- ・将来的なリフォームは可能か
- ・リフォームする場合、いくらかかるか

「このプランは完全に固定されています」と言われたら、本当にそれで問題ないか、よく考えてください。

対策③: 可変性のあるプランを選ぶ

最近では、ローコスト住宅でも「可変性」を重視したプランが増えています。

例えば、以下のような工夫です。

- ・ 広い部屋を後から仕切れるように、あらかじめドア枠を2つ設置しておく
- ・ 収納を可動式にして、間仕切りとしても使えるようにする
- ・ 将来的に壁を追加できるよう、下地を入れておく

こうしたプランを提供しているハウスメーカーもあるので、複数社を比較検討しましょう。

2-2. 失敗事例②：性能の低下で後悔

【結論】断熱材や設備のグレードを下げすぎると、光熱費が高くなり、トータルコストで損をします。

なぜ性能が重要なのか

「性能なんて、目に見えないから別にいいでしょ」

そう思っていないですか？

実は、住宅の性能は、あなたの生活費に直接影響する最も重要な要素の一つなのです。

【実例】断熱性能をケチって、光熱費が年間 20 万円増

群馬県在住の J さん(30 代・会社員)は、総額 1,500 万円でローコスト住宅を建てました。

予算を抑えるため、担当者から提案されたのは「断熱材のグレードを下げる」という選択でした。

「断熱材をグレードアップすると、プラス 60 万円かかると言われて。正直、その 60 万円がもったいなくて、標準仕様のままにしたんです」

しかし、住み始めて最初の冬、J さんは後悔しました。

「朝起きると、息が白いんですよ。室温を測ったら、リビングでも 10 度以下。エアコンを最大出力でつけても、なかなか暖まらない。電気代を見たら、月 3 万円を超えていました」

夏も同様です。外気温が 35 度を超える日は、エアコンをつけても室温が 30 度以下にならない。結局、24 時間エアコンをつけっぱなしにすることになりました。

「冬は月 3 万円、夏は月 2 万円。年間で計算すると、光熱費だけで約 20 万円かかっています。友人の家は断熱材をしっかり入れていて、光熱費は年間 8 万円程度だそうです」

つまり、Jさんは年間 12 万円、30 年間で 360 万円も余計に光熱費を払うことになるのです。

「最初に 60 万円ケチったせいで、トータルでは 360 万円損をする。こんなことなら、絶対に断熱材をグレードアップすべきでした……」

その他の性能低下による失敗例

【事例 1】外壁材の劣化が早く、10 年で修繕が必要に「通常なら 15 年～20 年もつはずの外壁が、10 年でひび割れてきました。塗り直すのに 150 万円かかると言われて、ショックです」
(栃木県・40 代男性)

【事例 2】窓際から浸水してきた「シーリング材(窓枠と壁の隙間を埋める材料)が安物だったようで、雨が降ると窓際から水が染み込んできます。修理に 50 万円かかりました」(茨城県・30 代女性)

【事例 3】通気性が悪く、壁にカビが生えた「コストを抑えるために窓の数を減らしたら、湿気がこもってカビだらけに。結局、換気扇を追加で設置しました」(埼玉県・30 代男性)

対策：明細見積書で資材の詳細を確認

では、どうすれば性能の低下を防げるのでしょうか。

対策①：明細見積書を必ず取得する

見積書には、「総額いくら」しか書かれていないことがあります。これでは、どんな資材が使われているか分かりません。

必ず「明細見積書」を請求してください。明細見積書には、以下の情報が記載されています。

- ・断熱材のメーカー名、種類、厚み
- ・外壁材のメーカー名、型番
- ・窓のメーカー名、型番（ペアガラスかトリプルガラスか）

- ・シーリング材のメーカー名、型番

これらの情報をインターネットで検索すれば、性能や耐久年数が分かります。

対策②:断熱性能は絶対に妥協しない

もし予算が限られているなら、以下の優先順位で考えてください。

【優先度:高】

- ・断熱材のグレード
- ・窓の性能（ペアガラス以上）
- ・気密性（隙間を作らない施工）

【優先度:中】

- ・外壁材のグレード
- ・屋根材のグレード

【優先度：低】

- ・ 内装のデザイン
- ・ 設備のデザイン性

断熱性能は、後からアップグレードしようとするとな数百万円単位でコストがかかります。最初からしっかり投資しておく方が、圧倒的にコスパが良いのです。

対策③：施工の品質を確認する

資材が良くても、施工が雑だと意味がありません。

以下の方法で、施工の品質を確認しましょう。

- ・ 構造見学会に参加する：建築中の住宅を見学できるイベントです。断熱材の施工状況、配管の処理などをチェックできます。

- ・ 第三者検査を依頼する：ホームインスペクター（住宅診断士）に依頼して、施工の品質をチェックしてもらう方法です。費用は5万円～10万円程度。
- ・ 施工中の写真を撮らせてもらう：完成後は見えなくなる部分を写真に残しておく、将来のリフォーム時に役立ちます。

2-3. 失敗事例③：安っぽい仕上がりで後悔

【結論】コンパクトでシンプルな外観や安価な素材により、「安そうに見える」と感じることがあります。

なぜ安っぽく見えるのか

「見た目なんて気にしない」と思っている、いざ建ってみると気になるものです。

特に、周囲の家と比較したときに「落差」を感じる人が多いようです。

【実例】 周囲の家と比べて「安そう」と感じた

静岡県在住の K さん(30 代・会社員夫婦)は、総額 1,700 万円でローコスト住宅を建てました。

「最初は『シンプルでスタイリッシュ』だと思っていたんです。余計な装飾がなくて、モダンな感じ。気に入っていましたが」

しかし、引っ越し当日、K さんは少し戸惑いました。

「隣の家を見たら、外壁がタイル張りで、玄関ポーチには立派な柱があって、植栽も豊か。道を挟んだ向かいの家も、屋根が瓦で外壁に凹凸があって……。うちだけ、つるっとした箱みたいで」

Kさんの家の外観は、以下のような特徴でした。

- ・ 凹凸のないシンプルな箱型
- ・ 窓が小さめで、配置が均一
- ・ 外壁はサイディング（安価な外壁材）
- ・ 外構はコンクリート打ちっぴなしのみ、植栽なし

「正直、『安そうだな』って自分でも思いました。妻も『もう少しお金かけてもよかったかもね』って言ってて……」

その他の「安っぽい仕上がり」事例

【事例 1】水回り設備のデザイン性がない「キッチンやトイレは機能的には問題ないんですが、デザインが『いかにも標準品』って感じで。友人が遊びに来たとき、少し恥ずかしかったです」（愛知県・30代女性）

【事例 2】外壁の塗装ムラがあった「引き渡し直前に気づいたんですが、外壁に塗装ムラがありました。交渉して塗り直してもらいましたが、最初から気をつけておけばよかった」(千葉県・40 代男性)

対策：施工事例の確認と内覧会参加

では、どうすれば「安っぽい仕上がり」を防げるのでしょうか。

対策①: 施工事例を徹底的にチェックする

ハウスメーカーのホームページには、必ず「施工事例」が掲載されています。

- ・ 外観はどんな感じか
- ・ 内装の雰囲気はどうか
- ・ 自分の好みに合うか

実際の完成写真を見て、イメージとのギャップがないか確認しましょう。

対策②:オープンハウスや内覧会に参加する

写真だけでは分からない「質感」や「雰囲気」を、実際に確認できます。

- ・ 外壁材の質感はどうか
- ・ 床材は安っぽくないか
- ・ ドアの開閉はスムーズか
- ・ 収納は使いやすいそうか

最低でも 3～5 棟は見学して、比較することをおすすめします。

対策③:外構や植栽でカバーする

もし建てた後に「安っぽいな」と感じてても、外構や植栽で十分カバーできます。

- ・ 玄関周りに植栽を配置する（費用：10 万円～30 万円）
- ・ アプローチにタイルや石を敷く（費用：20 万円～50 万円）
- ・ 外壁の一部にアクセントカラーを追加する（費用：15 万円～30 万円）

「建物本体は予算を抑えて、外構に後からお金をかける」という戦略も有効です。

2-4. 失敗事例④：オプション費用で後悔

【結論】標準仕様では不十分で、オプションを追加していくうちに予算オーバーになることがあります。

なぜオプション費用がかさむのか

ローコスト住宅の広告で「坪単価 40 万円」「総額 1,200 万円」と書かれていても、それは**最低限の標準仕様での価格**です。

実際に自分好みの家にしようとする、オプションが必要になります。

【実例】 キッチンにこだわって予算オーバー

愛知県在住の L さん(30 代・主婦)は、料理が趣味です。

「毎日料理をするので、キッチンだけは妥協したくなかったんです」

Ｌさんが選んだローコスト住宅の標準仕様は、以下のようなものでした。

- ・ システムキッチン：幅 2.4m、吊り戸棚なし
- ・ コンロ：2 口ガスコンロ
- ・ 食洗機：なし
- ・ 作業スペース：狭め

「これじゃ、とても料理できない……」と思ったＬさんは、以下のオプションを追加しました。

- ・ キッチン を 3m に拡張：+15 万円
- ・ 3 口 IH コンロに変更：+10 万円
- ・ 食洗機を追加：+12 万円
- ・ カウンター型キッチンに変更：+20 万円
- ・ 吊り戸棚を追加：+8 万円

合計：+65 万円

「給湯器も省エネタイプにしたくて、さらに+18 万円。水栓も使いやすいものに変更して+5 万円。気づいたら、水回りだけで 88 万円も追加していました」

当初の予算は 1,500 万円でしたが、最終的には 1,650 万円に。

「予算オーバーしてしまいましたが、毎日使うキッチンなので、妥協しなくてよかったと思っています。でも、もう少し計画的にやればよかったな、とは思います」

その他のオプション費用の失敗例

【事例 1】あれもこれもと追加して、300 万円オーバー「最初は『標準仕様で十分』と思っていたんですが、打ち合わせのたびに『これもつけたい』『あれも欲しい』となって。気づいたら総額が 300 万円も増えていました」(神奈川県・40 代男性)

【事例 2】標準仕様があまりにも貧弱で、メーカーを変えた
「見積もりを見たら、標準仕様がほぼ何もない状態で。オプションで普通のレベルにするだけで 200 万円以上かかりそうだったので、別のメーカーに変更しました」(東京都・30 代女性)

対策：譲れないラインを事前に決める

では、どうすればオプション費用のコントロールができるのでしょうか。

対策①：絶対に譲れないポイントをリスト化する

オプションを追加する前に、以下の質問を自分に問いかけてください。

- ・これは本当に必要か？
- ・これがないと、生活に支障が出るか？
- ・10 年後も「つけてよかった」と思えるか？

そして、優先順位をつけましょう。

【優先度:高】毎日使うもの

- ・ キッチン、バスルーム、トイレなどの水回り
- ・ 断熱材、窓などの性能関連

【優先度:中】あれば便利なもの

- ・ 床暖房、浴室乾燥機
- ・ ウォークインクローゼット

【優先度:低】見た目に関するもの

- ・ 内装のデザイン性
- ・ 照明のグレード

対策②:標準仕様が充実しているメーカーを選ぶ

ローコストハウスメーカーの中には、標準仕様が非常に充実しているところもあります。

例えば、富士住建の「完全フル装備の家」は、以下が標準仕様に含まれています。

- ・ビルトイン食洗機
- ・浴室暖房換気乾燥機
- ・エアコン
- ・カーテン
- ・防犯ガラス

「後からオプションを追加する」より、「最初から標準仕様が充実している」メーカーを選ぶ方が、トータルコストを抑えられることもあります。

対策③:予算に余裕を持たせておく

「予算 1,500 万円」と決めていても、実際には 20%～30%増えることが多いです。

そのため、以下のように余裕を持った予算設定をおすすめします。

- ・ 建物本体価格:1,200 万円
- ・ オプション費用:200 万円
- ・ 予備費:100 万円
- ・ 合計:1,500 万円

こうすることで、「予算オーバーした!」というストレスを減らせます。

2-5. 失敗事例⑤:後悔ポイントの見逃し

【結論】契約前に詳細な確認ができず、建てた後に「こんなはずじゃなかった」と気づくケースがあります。

なぜ見逃しが起こるのか

家づくりは、ほとんどの人にとって「初めての経験」です。

何を確認すべきか分からない。チェックリストもない。そのため、重要なポイントを見逃してしまうのです。

【実例】 耐震性能を確認していなかった

宮城県在住の M さん(40 代・会社員)は、総額 1,600 万円でローコスト住宅を建てました。

「断熱性能については担当者と何度も話していたんです。でも、耐震性能については、一度も話題に出ませんでした」

引き渡し後、友人との会話で初めて気づいたそうです。

「友人が『うちは耐震等級 3 だから安心だよ』って言ってて。『耐震等級って何?』って聞いたら、地震に対する強さのレベルだって。それで初めて、自分の家の耐震性能を確認していなかったことに気づきました」

Mさんが担当者に確認したところ、Mさんの家は「耐震等級 1(法律で定められた最低基準)」でした。

「東日本大震災を経験している地域なのに、耐震性能を確認していなかったなんて……。本当に後悔しています」

その他の見逃し事例

【事例 1】もっと良い施工業者を後から見つけた「契約した後に、同じ価格帯でもっと自由度の高いプランを提供している工務店を見つけて。もっと広く探せばよかった」(茨城県・30 代男性)

【事例 2】リスト化していなかったなので抜けが多かった「頭の中で考えていただけだったので、実際に住んでから『あ、これ確認してなかった』ということが次々と出てきました」(栃木県・30 代女性)

対策:チェックリストの作成と複数比較

では、どうすれば見逃しを防げるのでしょうか。

対策①:確認項目をリスト化する

以下のような項目を、必ずリスト化して確認しましょう。

【性能関連】 ☒ 断熱性能(断熱材の種類、厚み) ☒ 気密性能(C 値はいくつか) ☒ 耐震性能(耐震等級はいくつか) ☒ 防火性能 ☒ 遮音性能

【保証関連】 ☒ 保証期間は何年か ☒ 保証の対象範囲は何か ☒ 定期点検は何回あるか ☒ アフターサービスの内容

【費用関連】 ☒ 総額はいくらか(付帯工事費、諸費用含む) ☒ オプション費用はいくらか ☒ キャンセル料はいくらか

対策②:複数社から見積もりを取る

最低 3 社、できれば 5 社から見積もりを取りましょう。

そうすることで、以下のことが分かります。

- ・相場はどれくらいか
- ・この施工業者の提案は適正か
- ・他社と比べて何が優れているか、劣っているか

1社だけで決めてしまうと、比較対象がないため、「これで本当に良いのか」が分かりません。

対策③:成功事例・失敗事例を最低 30 件は読む

インターネットで「ローコスト住宅 失敗」「ローコスト住宅 後悔」と検索すると、たくさんの事例が出てきます。

ブログ、Instagram、X(旧 Twitter)などで、実際に建てた人の生の声を集めましょう。

「こんな失敗があるのか」と知ることで、同じ失敗を防げます。

2-6. 失敗事例⑥:アフターサービスの不安

【結論】大手に比べてアフターサービスが充実していない場合があります、トラブル時の対応に不安を感じることがあります。

なぜアフターサービスが重要なのか

家は、建てて終わりではありません。住み始めてからが本番です。

- ・ 設備の不具合が出た
- ・ 雨漏りが発生した
- ・ 床がきしむ

こうしたトラブルが起きたとき、すぐに対応してくれるかどうか
が重要なのです。

【実例】保証期間が 3 年しかなかった

岐阜県在住の N さん(30 代・会社員)は、総額 1,400 万円でローコスト住宅を建てました。

「保証は当然 10 年あるものだと思っていました。契約書に小さく『設備保証 3 年』と書かれていたんですが、見落としていたんです」

住み始めて 5 年目、エアコンが故障しました。

「担当者に連絡したら、『保証期間は 3 年なので、修理は有償になります』と言われて。修理費用は 8 万円でした」

さらに、給湯器も 7 年目に故障。こちらは交換が必要で、費用は 25 万円。

「保証が 10 年あれば、これらは無償で対応してもらえたはずなのに……。契約前にしっかり確認しておけばよかった」

その他のアフターサービス不安事例

【事例 1】対応窓口がなく、メールの返信が遅い「不具合を報告しても、返信が 1 週間以上かかることがザラ。急ぎの場合は本当に困ります」(愛知県・40 代男性)

【事例 2】建物本体以外は保証対象外だった「建物本体と防水は 10 年保証でしたが、設備や内装は一切保証がありませんでした。契約書をよく読まなかった自分が悪いんですが……」(静岡県・30 代女性)

対策:瑕疵担保責任保証の内容確認

では、どうすればアフターサービスの不安を解消できるのでしょうか。

対策①:瑕疵担保責任保証を理解する

新築住宅には、法律で定められた「瑕疵担保責任保証」があります。

これは、引き渡しから 10 年間、建物の構造部分に不備があった場合、施工業者が無償で修理する義務を負うという保証です。

ただし、保証範囲は「柱、梁、基礎、屋根」などの構造部分のみ。壁紙、床材、設備などは含まれません。

対策②:設備保証の内容を確認する

瑕疵担保責任保証とは別に、「設備保証」があるかどうかを確認しましょう。

- ・ キッチン、バスルーム、トイレなどの設備
- ・ エアコン、給湯器
- ・ 建具(ドア、窓など)

これらの保証期間が何年か、契約前に必ず確認してください。

対策③:定期点検の回数を確認する

アフターサービスの充実度は、定期点検の回数でも分かります。

- ・ 1 年、2 年、5 年、10 年の 4 回
- ・ 1 年、3 年、5 年、7 年、10 年の 5 回
- ・ 1 年、2 年、5 年、10 年、15 年、20 年の 6 回

点検回数が多いほど、アフターサービスが充実していると言えます。

2-7. 失敗事例⑦:騒音の問題で後悔

【結論】コストカットの影響で壁や床が薄く、騒音トラブルになる可能性があります。

なぜ騒音が問題になるのか

ローコスト住宅では、コストを抑えるために壁や床の厚みを最低限にしていることがあります。

その結果、隣家や外部からの音が聞こえやすく、逆にこちらの音も外に漏れやすくなるのです。

【実例】 隣の子どもたちの声が響いて気になる

北海道在住の O さん(30 代・会社員)は、総額 1,500 万円でローコスト住宅を建てました。

「隣の家との距離は 5m くらいあったので、音は気にならないだろうと思っていました」

しかし、住み始めて 1 ヶ月後、O さんは驚きました。

「隣の家の子どもの声が、はっきり聞こえるんです。『ママー!』とか『遊ぼー!』とか。最初は『窓を開けているのかな』と思ったんですが、窓を閉めても O さんは、施工業者に相談しましたが、「壁の厚さは法律の基準を満たしています」と言われるだけでした。

「結局、自分で防音カーテンと防音マットを買って対策しました。費用は10万円くらいかかりましたが、少しはマシになりました」

その他の騒音問題事例

【事例1】エアコンの室外機の音がうるさい「隣のエアコンの室外機がうちの寝室の窓のすぐ近くにあって、夜中も『ブーン』という音が聞こえます。最初は気にならなかったんですが、だんだんストレスになってきました」(神奈川県・40代女性)

【事例2】自分の家の音が漏れていないか心配「子どもが走り回る音や、テレビの音が外に漏れていないか心配で。隣の方に『うるさくないですか?』って聞いたら、『少し聞こえますね』と言われて、申し訳ない気持ちになりました」(埼玉県・30代男性)

対策:遮音・防音対策の事前確認

では、どうすれば騒音問題を防げるのでしょうか。

対策①:壁の構造を確認する

契約前に、以下の点を確認しましょう。

- ・ 壁の厚さは何 cm か
- ・ 壁の中に吸音材は入っているか
- ・ 遮音性能はどれくらいか(D 値、L 値)

対策②:窓を二重窓にする

窓は、音が最も入ってきやすい場所です。

二重窓(インナーサッシ)にすることで、遮音性能が大幅に向上します。

費用は1箇所あたり5万円～10万円程度。高く感じるかもしれませんが、静かな環境は「プライスレス」です。

対策③:建てた後でもできる対策

もし建てた後に騒音が気になる場合、以下の対策があります。

- ・防音カーテンを設置する(1窓あたり1万円～3万円)
- ・防音マットやカーペットを敷く(1部屋あたり2万円～5万円)
- ・壁際に本棚などの家具を置いて、音を吸収する(無料)

完璧ではありませんが、一定の効果はあります。

2-8. 失敗事例⑧:住み心地の不満が積み重なる

【結論】これまで紹介した問題が複合的に発生し、住み心地に不満を感じることがあります。

なぜ不満が積み重なるのか

一つ一つは小さな問題でも、それが積み重なると大きなストレスになります。

- ・ 冬は寒い
- ・ 隣の音が聞こえる
- ・ 収納が足りない
- ・ オプション費用がかさんだ

こうした不満が重なると、「この家に住み続けたくない」という気持ちになってしまうのです。

【実例】新築ブルーに陥ってしまった

福岡県在住の P さん(30 代・主婦)は、総額 1,600 万円でローコスト住宅を建てました。

「最初は『念願のマイホームだ!』って嬉しかったんです。でも、住み始めて 3 ヶ月くらいから、だんだん不満が出てきて……」

P さんが感じた不満は、以下のようなものでした。

- ・断熱性能が低く、冬は寒くて夏は暑い
- ・収納が少なく、物が溢れている
- ・外観がシンプルすぎて、周囲の家と比べると見劣りする
- ・間取りが固定で、将来の変更ができない

「一つ一つは『まあ、仕方ないか』って思える程度なんです。でも、それが積み重なって、だんだん家にいるのが辛くなってきました」

Pさんは、夜眠れなくなり、食欲も落ちました。いわゆる「新築ブルー」「マイホームブルー」と呼ばれる状態です。

「夫に『売却して引っ越そうか』って相談したこともあります。でも、住宅ローンが残っているし、現実的じゃないですよね……」

新築ブルー・マイホームブルーとは

新築ブルー・マイホームブルーとは、マイホームの購入前後に感じる不安や後悔が原因で、精神的に不安定になる状態のことです。

症状としては、以下のようなものがあります。

- ・ 気分が落ち込む
- ・ 不安が増す
- ・ イライラする
- ・ 眠れない
- ・ 食欲がなくなる

ひどい場合は、ノイローゼ気味になることもあります。

対策:100%の満足は難しいと割り切る

では、どうすれば新築ブルーを防げるのでしょうか。

対策①:完璧を求めない

まず大前提として、「100%満足する家は存在しない」と理解してください。

予算が 3,000 万円でも、5,000 万円でも、必ず何かしらの不満は出てきます。

大切なのは、「この妥協ラインなら許容できる」というラインを事前に決めておくことです。

対策②:「いざとなればどうにでもなる」と考える

もし住んでみて本当に耐えられないなら、以下の選択肢があります。

- ・ DIY で修繕する
- ・ リフォーム・リノベーションをする
- ・ 売却して引っ越す
- ・ 賃貸に出して別の場所に住む

「この家に一生住まなければならない」わけではありません。
柔軟に考えましょう。

対策③:良い面に目を向ける

不満ばかりに目を向けると、どんどん気持ちが沈んでいきます。

以下のように、良い面にも目を向けましょう。

- ・家賃を払わなくていい
- ・自分の好きなようにインテリアを変えられる
- ・子どもが走り回っても(ある程度は)大丈夫
- ・住宅ローンの返済負担が軽い

小さなことでも、「よかった」と思えることを見つけることが大切です。

【第 2 章のまとめ】

この章では、ローコスト住宅の 8 つの失敗・後悔事例を紹介しました。

1. 間取りの制限で後悔
2. 性能の低下で後悔
3. 安っぽい仕上がりで後悔
4. オプション費用で後悔
5. 後悔ポイントの見逃し
6. アフターサービスの不安
7. 騒音の問題で後悔
8. 住み心地の不満が積み重なる

これらの失敗例を知ることで、あなたは同じ轍を踏まずに済みます。

大切なのは、「事前に知って、対策を立てる」こと。

次の第 3 章では、それでもローコスト住宅を選ぶ価値がある理由を解説します。デメリットだけでなく、メリットもしっかり理解することで、冷静な判断ができるようになります。

第3章:それでもローコスト住宅を選ぶ価値がある理由

「第2章を読んで、正直不安になりました……。ローコスト住宅って、やっぱりやめた方がいいんでしょうか？」

もしかすると、あなたは今、そんな気持ちになっているかもしれません。

でも、ちょっと待ってください。

確かに、ローコスト住宅にはデメリットや注意すべき点があります。しかし、それは「ローコスト住宅を選んではいけない」という意味ではありません。

むしろ、デメリットを理解した上で正しく選べば、ローコスト住宅は最高の選択肢になり得るのです。

この章では、ローコスト住宅のメリットと、実際に成功している人たちの事例を紹介します。読み終わるころには、「自分にもできそう」と思えるはずです。

3-1. ローコスト住宅の4つのメリット

【結論】ローコスト住宅には、予算を抑えながら理想の暮らしを実現できる、4つの大きなメリットがあります。

メリット①:低価格でこだわり部分にお金をかけられる

「全部にお金をかけることはできない。だからこそ、本当に大切な部分だけにお金を使いたい」

これが、ローコスト住宅の最大の魅力です。

【事例】 キッチンだけにこだわって、他は標準仕様

千葉県在住の Q さん(30 代・主婦)は、総額 1,600 万円でローコスト住宅を建てました。

Q さんは料理教室を自宅で開きたいと考えていたため、キッチンだけはプロ仕様にしたかったのです。

「一般的な注文住宅だと、全体的にグレードが高くて予算オーバー。でも、ローコスト住宅なら、ベースの価格が安い分、キッチンに予算を回せると思ったんです」

Q さんの選択は、以下のようなものでした。

【お金をかけた部分】

- ・キッチン:幅 3.2m のアイランドキッチン、IH コンロ 3 口、食洗機、大型シンク (+120 万円)
- ・換気扇:業務用レベルの強力なもの (+15 万円)
- ・床材:水に強いタイル張り (+25 万円)

【標準仕様のまま】

- ・バスルーム:標準仕様
- ・トイレ:標準仕様
- ・外壁:標準仕様
- ・照明:標準仕様

「キッチン周りだけで 160 万円かかりましたが、他を標準仕様にすることで総額は予算内に収まりました。今、自宅で毎月料理教室を開いていますが、生徒さんから『このキッチン、素敵ですね!』ってよく言われます」

これが、ローコスト住宅の賢い使い方です。

全部を高級にする必要はない。自分が本当にこだわりたい部分だけにお金をかける。

この「選択と集中」ができるのが、ローコスト住宅の強みなのです。

他にも、こんな「選択と集中」があります

【パターン①】断熱性能だけは最高グレード、他は標準「光熱費を抑えたいので、断熱材と窓は最高グレードに。内装は標準仕様で十分です」(群馬県・30代男性)

【パターン②】子ども部屋だけは広く、他はコンパクトに「子どもが3人いるので、子ども部屋だけは広くしました。夫婦の寝室は6畳で十分です」(埼玉県・40代女性)

【パターン③】外構にお金をかけて、建物はシンプルに「建物本体はシンプルな箱型で安く抑えて、外構に100万円かけま

した。植栽や門柱で、見た目の印象がガラッと変わりました」
(神奈川県・30 代男性)

メリット②:工期が短く約 3 ヶ月で完成

「急な転勤が決まって、3 ヶ月後には新しい家に住まないといけない……」

こんな状況でも、ローコスト住宅なら間に合う可能性があります。

なぜ工期が短いのか

一般的な注文住宅の場合、着工から完成まで 5～6 ヶ月かかります。

一方、ローコスト住宅は3～4ヶ月で完成することが多いのです。

その理由は、以下の通りです。

【規格化されている】 設計図があらかじめ決まっているので、設計にかかる時間が短縮されます。

【プレカット工法】 木材を工場で事前にカットしてから現場に運ぶため、現場での作業時間が短くなります。

【マニュアル化されている】 施工の手順がマニュアル化されているため、スムーズに作業が進みます。

【事例】 子どもの入学に間に合わせたかった

愛知県在住の R さん(30 代・会社員夫婦)は、子どもの小学校入学に合わせて家を建てたいと考えていました。

「子どもの入学が 4 月。できれば 3 月中には引っ越したかったです。でも、家づくりを考え始めたのが 11 月で……」

通常なら間に合わないタイミングです。しかし、ローコストハウスメーカーに相談したところ、「ギリギリ間に合うかもしれません」と言われました。

- ・ 11 月中旬:契約
- ・ 12 月上旬:着工
- ・ 3 月上旬:完成・引き渡し

約 3 ヶ月半で完成しました。

「本当にギリギリでしたが、入学式までに引っ越しが完了して、本当に助かりました。もし一般的な注文住宅を選んでいたら、絶対に間に合わなかったと思います」

工期が短いメリット

工期が短いと、以下のようなメリットがあります。

【仮住まいの家賃が節約できる】 建築中に仮住まいをする場合、その家賃が節約できます。

例えば、仮住まいの家賃が月 10 万円の場合:

- ・ 6 ヶ月:60 万円
- ・ 3 ヶ月:30 万円
- ・ 差額:30 万円

【早く新生活が始められる】 新しい家での生活を早く楽しめます。

【天候リスクが減る】 工期が長いほど、雨や台風などの天候による工事の遅延リスクが高まります。工期が短ければ、そのリスクも減ります。

メリット③:住宅ローンが組みやすく返済負担が軽い

「住宅ローンの返済が、毎月の生活を圧迫している……」

こんな状態では、せっかくのマイホームも楽しめませんよね。

ローコスト住宅なら、住宅ローンの返済負担を大幅に軽減できます。

【実例】 月々の返済額が 3 万円減った

静岡県在住の S さん(30 代・会社員)は、当初 2,500 万円の住宅を検討していました。

しかし、ファイナンシャルプランナーに相談したところ、こう言われたそうです。

「今の年収で 2,500 万円のローンを組むと、月々の返済額は約 7.5 万円。お子さんの教育費や老後の貯蓄を考えると、少し厳しいかもしれません」

そこで、S さんはローコスト住宅に切り替えることにしました。

【当初の計画】

- ・ 借入額:2,500 万円
- ・ 金利:1.5%(35 年固定)
- ・ 月々の返済額:約 7.6 万円
- ・ 総返済額:約 3,200 万円

【ローコスト住宅に変更】

- ・ 借入額:1,600 万円
- ・ 金利:1.5%(35 年固定)
- ・ 月々の返済額:約 4.9 万円
- ・ 総返済額:約 2,050 万円

月々の返済額が 2.7 万円減り、総返済額は 1,150 万円も減りました。

「月々2.7 万円の差って、すごく大きいんですよ。その分を子どもの習い事に回したり、家族旅行の費用にしたり。生活に余裕が生まれました」

返済負担が軽いと、こんな良いことがあります

【生活に余裕ができる】 教育費、趣味、旅行など、他のことにお金を使えます。

【貯蓄ができる】 老後資金や緊急時の備えとして、貯蓄を増やせます。

【精神的な安心感】 「ローンが返せなくなったらどうしよう」という不安から解放されます。

【リストラや減給にも対応しやすい】 万が一、収入が減っても、返済負担が軽ければ何とか乗り切れる可能性が高まります。

メリット④:将来的にリフォーム・建て替えしや

すい

「30 年後、40 年後、この家はどうなっているんだろう？」

家は長く住むものだからこそ、将来のことも考えなければなりません。

ローコスト住宅の場合、初期投資を抑えられる分、将来の変化に対応しやすいのです。

【実例】 20 年後に大規模リフォームを計画

北海道在住の T さん(40 代・会社員)は、20 年前にローコスト住宅を建てました。

「当時は子どもが小さかったので、とにかく安く家を建てたかったです。総額 1,200 万円でした」

Tさんの家は、20 年間しっかり役割を果たしてくれました。しかし、子どもが独立した今、夫婦 2 人には広すぎると感じています。

「そろそろリフォームして、バリアフリーにしたいと思っています。見積もりを取ったら、500 万円くらいかかるそうです」

もし最初に 3,000 万円の住宅ローンを組んでいたら、まだ返済中でリフォーム費用を捻出するのは難しかったでしょう。

しかし、Tさんは 10 年前に住宅ローンを完済しています。

「ローンがないので、リフォーム費用を貯蓄から出せます。これも、最初にローコスト住宅を選んだおかげだと思っています」

将来の選択肢が広がる

初期投資を抑えることで、以下のような選択肢が生まれます。

【選択肢①】大規模リフォーム 間取りを変更したり、設備を最新のものに交換したり。

【選択肢②】建て替え 30年～40年後、建物が老朽化したら建て替える。

【選択肢③】売却して住み替え ライフスタイルが変わったら、売却して別の場所に住む。

【選択肢④】賃貸に出す 別の場所に住みながら、家賃収入を得る。

ローコスト住宅なら、こうした選択を柔軟に考えられます。

3-2. どんな人にローコスト住宅が向いているか

「ローコスト住宅のメリットは分かったけど、自分に合っているのかな?」

そんな疑問を持つ方のために、ローコスト住宅が向いている人の特徴をまとめました。

①短期で家を建てたい人

こんな人におすすめ:

- ・ 急な転勤が決まった
- ・ 子どもの入学・入園に合わせたい
- ・ 現在の賃貸の更新時期が迫っている
- ・ できるだけ早く新生活を始めたい

工期が3～4ヶ月と短いローコスト住宅なら、こうしたニーズに応えられます。

②建売より自由度がほしい人

建売住宅は、すでに建っている家を買うので、間取りや設備は変更できません。

「建売だと、どうしても妥協しなきゃいけない部分があるんだよね……」

そんな方には、ローコスト住宅がぴったりです。

規格化されているとはいえ、ある程度の選択肢はあります。

- ・ 3LDK か 4LDK か
- ・ キッチン是对面式か壁付けか
- ・ 外壁の色は何色にするか

こうした選択ができるだけでも、建売より満足度は高くなります。

③住宅ローンの返済負担を減らしたい人

こんな人におすすめ:

- ・ 年収があまり高くない
- ・ 子どもの教育費にお金をかけたい
- ・ 老後の貯蓄をしっかりしたい

- ・ 趣味や旅行も楽しみたい

「家にお金をかけすぎて、他のことを我慢する」のではなく、
「家は必要十分なレベルにして、他のことも楽しむ」という価値観の人に向いています。

④若い世代で予算が限られている人

20代、30代前半の方は、まだ収入が少ないことが多いですよ
ね。

「頭金も少ないし、住宅ローンもあまり借りられない……」

そんな状況でも、ローコスト住宅なら手が届きます。

【実例】 27 歳でマイホームを手に入れた

茨城県在住の U さん(20 代・会社員)は、27 歳でローコスト住宅を建てました。

「年収は 350 万円。頭金も 50 万円しか用意できませんでした。でも、『賃貸の家賃を払い続けるより、早めにマイホームを持ちたい』と思ったんです」

U さんが選んだのは、総額 1,400 万円のローコスト住宅。

- ・ 借入額:1,350 万円
- ・ 月々の返済額:約 4.1 万円

「今まで払っていた家賃が月 6 万円だったので、むしろ負担が減りました。早めにマイホームを持てたことで、将来の不安も減りましたね」

若いうちにマイホームを持つメリットは、住宅ローンの返済期間を長く設定できることです。

- ・ 27 歳で 35 年ローン:62 歳で完済
- ・ 40 歳で 35 年ローン:75 歳で完済

定年前に完済できるかどうかは、老後の生活に大きく影響します。

3-3. 実際の成功事例に学ぶ

「でも、本当にローコスト住宅で満足している人っているの？」

そんな疑問を持つ方のために、実際の成功事例を 2 つ紹介します。

【成功事例①】27.5 坪の平屋で 1,332 万円(2 人暮らし)

基本情報

- ・ 建築費:1,332 万円(建物本体価格)
- ・ 延床面積:27.5 坪(約 91 m²)
- ・ 家族構成:夫婦 2 人
- ・ 施工業者:アットナチュレ

V さんご夫婦の家づくりストーリー

栃木県在住の V さんご夫婦(30 代)は、子どもを持たない選択をしたため、コンパクトな平屋を希望していました。

「2人暮らしなので、大きな家は必要ない。その分、自分たちの好きな空間にしたかったんです」

Vさんが選んだのは、規格型住宅をベースにカスタマイズできるプランでした。

こだわったポイント

【間取り】

- ・リビングを広めに取り、薪ストーブを設置
- ・寝室と趣味の部屋(ミシン作業ができるアトリエ)を確保
- ・間仕切りを少なくして、開放的な空間に

【内装】

- ・フローリングは温かみのある木目調
- ・壁は白を基調にシンプルに

- ・収納は必要最小限に抑えて、空間を広く使う

【外観】

- ・シンプルなデザインの規格プランから選択
- ・外壁は白とグレーのツートンカラー

Vさんの満足ポイント

「最初は規格型だから自由度が低いと思っていましたが、実際には他のプランと組み合わせることで、ほぼオーダーメイドのような家になりました。薪ストーブがあるので、冬でも家全体が暖かくて快適です」

「何より、予算内に収まったことが一番の満足ポイントです。余った予算で、好きな家具を買い揃えることができました」

【成功事例②】 36 坪の 2 階建てで 1,000 万円～1,500 万円(3 人家族)

基本情報

- ・ 建築費:1,000 万円～1,500 万円(建物本体価格)
- ・ 延床面積:36 坪(約 119 m²)
- ・ 家族構成:夫婦+子ども 1 人
- ・ 施工業者:フルハウス

W さんご家族の家づくりストーリー

神奈川県在住の W さんご家族(30 代夫婦+子ども)は、当初 2,500 万円の予算で家づくりを考えていました。

しかし、複数のハウスメーカーを比較する中で、フルハウスの「36 坪 1,000 万円から」というプランに魅力を感じたそうです。

「最初は『こんなに安くて大丈夫?』って不安でした。でも、実際にモデルハウスを見学して、担当者さんの説明を聞いて、『これなら大丈夫』って確信しました」

こだわったポイント

【性能】

- ・トリプルガラスの Low-E サッシ(標準仕様)
- ・高性能断熱材(標準仕様)
- ・グラントスラブ基礎(標準仕様)

「フルハウスは、標準仕様の性能がかなり高いんです。他のローコストハウスメーカーだとオプションになるような設備が、最初から付いていました」

【デザイン】

- ・ 北欧スタイルの外観(淡いグリーンカラー)
- ・ リビングに隣接したウッドデッキ
- ・ 室内は爽やかなブルーを基調とした色使い

【追加したオプション】

- ・ 外構:芝生と植栽(約 50 万円)

W さんの満足ポイント

「予算を 1,000 万円以上抑えられたので、外構にしっかりお金をかけられました。夏は子どもがウッドデッキでプール遊びを
していて、本当に楽しそうです」

「夏場、エアコンをつけていなくても涼しく感じるんですよ。トリプルガラスのサッシのおかげだと思います。光熱費も想定より安くて、大満足です」

成功者が実践した 3 つのポイント

VさんとWさんの事例から、成功のポイントが見えてきます。

【ポイント①】何にこだわるか明確にする

- ・ Vさん:薪ストーブと開放的な空間
- ・ Wさん:性能(断熱・気密)と外構

【ポイント②】標準仕様が充実しているメーカーを選ぶ 両家とも、オプションをあまり追加せずに満足できるメーカーを選びました。

【ポイント③】予算に余裕を持たせる 浮いた予算を、家具や外構など「本当に必要なもの」に使いました。

【第 3 章のまとめ】

ローコスト住宅には、以下の 4 つのメリットがあります。

1. 低価格でこだわり部分にお金をかけられる
2. 工期が短く約 3 ヶ月で完成
3. 住宅ローンが組みやすく返済負担が軽い
4. 将来的にリフォーム・建て替えしやすい

ローコスト住宅が向いているのは、以下のような人です。

- ・ 短期で家を建てたい人
- ・ 建売より自由度がほしい人
- ・ 住宅ローンの返済負担を減らしたい人
- ・ 若い世代で予算が限られている人

実際の成功事例からも分かるように、「何にこだわるか」を明確にすれば、ローコスト住宅でも十分に満足できる家が建てられます。

次の第4章では、具体的なハウスメーカーの選び方と、おすすめのローコストハウスメーカーTOP8を紹介します。

「どのハウスメーカーを選べばいいの?」という疑問に、具体的に答えていきます。

第4章:後悔しないハウスメーカー・工務店の選び方

「ローコスト住宅を建てたいけど、どのハウスメーカーを選べばいいかわからない……」

これは、ほとんどの方が抱える悩みです。

全国には、ローコスト住宅を扱うハウスメーカーや工務店が数百社以上あります。その中から「自分に合った1社」を選ぶのは、簡単なことではありません。

しかし、安心してください。選び方のポイントさえ押さえれば、あなたに最適なハウスメーカーを見つけることができます。

この章では、ハウスメーカー選びの5つの比較ポイントと、おすすめのローコストハウスメーカーTOP8を紹介します。

4-1. 絶対に比較すべき 5 つのポイント

【結論】ハウスメーカーを選ぶ際は、①予算、②間取り、③こだわり条件、④保証、⑤実績の 5 つを必ず比較しましょう。

①予算内に収まるか(坪単価と総額の罠)

「坪単価 40 万円って書いてあったから、30 坪なら 1,200 万円で建てられるんだよね?」

これは、よくある勘違いです。

坪単価の罠

ハウスメーカーの広告に書かれている「坪単価」は、あくまで建物本体価格です。

実際に家を建てるには、以下の費用も必要になります。

【建物本体価格以外にかかる費用】

- ・付帯工事費(外構、水道・電気の引き込み、地盤改良など):約 20%
- ・諸費用(登記費用、住宅ローン手数料、火災保険など):約 10%

つまり、建物本体価格が 1,200 万円でも、総額は約 1,560 万円になるのです。

【実例】 坪単価だけで判断して失敗

埼玉県在住の X さん(30 代・会社員)は、「坪単価 45 万円」と
広告に書かれていたハウスメーカーに問い合わせました。

「30 坪の家を建てたいので、1,350 万円くらいかなと思ってい
ました。でも、実際に見積もりを取ったら……」

【見積もりの内訳】

- ・ 建物本体価格:1,350 万円(坪単価 45 万円 × 30 坪)
- ・ 付帯工事費:270 万円
- ・ 諸費用:135 万円
- ・ 総額:1,755 万円

「予算は 1,500 万円だったので、255 万円もオーバーしてしま
いました。坪単価だけで判断したのが失敗でしたね」

対策:総額で比較する

ハウスメーカーを比較する際は、必ず総額で比較してください。

見積もりを依頼する際は、以下のように伝えましょう。

「総額 1,500 万円以内で、30 坪の家を建てたいです。付帯工事費や諸費用も含めた見積もりをお願いします」

こうすることで、本当の価格が分かります。

②間取りや広さは十分か(規格住宅 vs 自由設計)

ローコストハウスメーカーには、大きく分けて 2 つのタイプがあります。

【タイプ①:完全規格型】 間取りや広さが完全に決まっていて、変更できない。

メリット:

- ・ 価格が安い
- ・ 選択肢が少ないので、決めるのが早い

デメリット:

- ・ 自由度がない
- ・ ライフスタイルに合わない可能性がある

【タイプ②:セミオーダー型】 いくつかのプランから選び、ある程度のカスタマイズが可能。

メリット:

- ・ある程度の自由度がある
- ・自分に合った間取りを選べる

デメリット:

- ・完全規格型より価格が高い
- ・選択肢が多く、決めるのに時間がかかる

【事例】規格型で間取りが合わなかった

群馬県在住の Y さん(30 代・夫婦+子ども 2 人)は、完全規格型のローコスト住宅を選びました。

「3LDK のプランがあって、『これで十分だな』と思ったんです。でも、実際に住んでみたら、子ども部屋が狭くて……」

Y さんが選んだプランは、以下のような間取りでした。

- ・ 1 階:LDK(16 畳)、和室(6 畳)
- ・ 2 階:主寝室(8 畳)、子ども部屋①(6 畳)、子ども部屋②(6 畳)

「子どもが小さいうちは良かったんですが、中学生になったら『部屋が狭い』って言われて。でも、間取りを変更できないプランだったので、どうしようもありませんでした」

対策:将来を見据えて選ぶ

間取りを選ぶ際は、5 年後、10 年後を想像してください。

以下のチェックリストを使って、確認しましょう。

【間取りチェックリスト】

☒ 子どもが成長しても、部屋は足りるか？

- ☑ リモートワークのスペースは確保できるか？
- ☑ 親が高齢になったとき、1 階だけで生活できるか？
- ☑ 収納は十分か？
- ☑ 将来、間取りを変更できるか？

もし「変更できるかも」と思うなら、セミオーダー型を選ぶことをおすすめします。

③こだわり条件は叶えられそうか(標準仕様とオプション)

「キッチン是对面式がいい」「床暖房は絶対に欲しい」「太陽光パネルを載せたい」

こうしたこだわり条件が、標準仕様に含まれているか、オプションなのかは、ハウスメーカーによって大きく異なります。

【実例】標準仕様の差で 100 万円の違い

神奈川県在住の Z さん(30 代・夫婦)は、3 社のハウスメーカーから見積もりを取りました。

Z さんの希望は、以下の通りです。

- ・ 対面式キッチン
- ・ 食洗機
- ・ 浴室暖房乾燥機
- ・ エアコン 2 台

【A 社の見積もり】

- ・ 建物本体価格:1,200 万円

- ・ オプション:対面式キッチン(+20 万円)、食洗機(+12 万円)、浴室暖房乾燥機(+10 万円)、エアコン 2 台(+30 万円)
- ・ 総額:1,272 万円

【B 社の見積もり】

- ・ 建物本体価格:1,350 万円
- ・ オプション:なし(すべて標準仕様)
- ・ 総額:1,350 万円

【C 社の見積もり】

- ・ 建物本体価格:1,150 万円
- ・ オプション:対面式キッチン(+25 万円)、食洗機(+15 万円)、浴室暖房乾燥機(+12 万円)、エアコン 2 台(+35 万円)
- ・ 総額:1,237 万円

「建物本体価格だけ見ると、C社が一番安い。でも、オプションを含めた総額で見ると、C社が一番高いんです。最終的には、総額が一番安いA社を選びました」

対策:希望をリスト化して見積もりを依頼する

見積もりを依頼する前に、**希望する設備や仕様をリスト化**しましょう。

そして、ハウスメーカーに以下のように伝えます。

「このリストの内容を含めた見積もりをお願いします。標準仕様に含まれているものと、オプションになるものを分けて教えてください」

こうすることで、正確な比較ができます。

④アフターサービスと保証内容はどうか

家は、建てて終わりではありません。**建てた後のサポートが非常に重要です。**

保証内容の違い

ハウスメーカーによって、保証内容は大きく異なります。

【A 社の場合】

- ・建物本体:10 年保証(法律で定められた最低限)
- ・設備:3 年保証
- ・定期点検:1 年、2 年、5 年、10 年の 4 回

【B 社の場合】

- ・ 建物本体:30 年保証(有償メンテナンスで最長 60 年)
- ・ 設備:10 年保証
- ・ 定期点検:1 年、2 年、5 年、10 年、15 年、20 年の 6 回
- ・ 24 時間 365 日コールセンター

この差は、**長期的な安心感**に大きく影響します。

【実例】保証が充実していて助かった

愛知県在住の AA さん(40 代・会社員)は、桧家住宅で家を建てました。

「桧家住宅は、設備の保証が 10 年延長できるんです。少し追加費用がかかりましたが、長く安心して住みたかったので申し込みました」

住み始めて 8 年目、給湯器が故障しました。

「普通なら保証期間外で、交換に 20 万円以上かかるところでした。でも、10 年延長保証に入っていたので、無償で交換してもらえました。本当に助かりましたね」

対策:保証内容を必ず確認する

契約前に、以下の項目を必ず確認しましょう。

【保証チェックリスト】

- ☒ 建物本体の保証期間は何年か？
- ☒ 設備の保証期間は何年か？
- ☒ 定期点検は何回あるか？

☑ 有償で延長できるか？

☑ 24 時間対応の窓口はあるか？

☑ 保証の範囲は何か？(何が含まれ、何が含まれないか)

特に、設備の保証期間は要注意です。3 年と 10 年では、大きな差があります。

⑤得意分野や過去の実績はどうか

ハウスメーカーには、それぞれ得意分野があります。

- ・断熱性能に強い
- ・狭小地の設計が得意
- ・子育て世帯向けのプランが豊富
- ・平屋が得意
- ・デザイン性が高い

自分の希望と、ハウスメーカーの得意分野が合っているかどうか重要です。

【実例】得意分野が合致して大満足

千葉県在住の BB さん(30 代・夫婦+子ども 2 人)は、アイフルホームで家を建てました。

「アイフルホームは『子どもに優しい家づくり』をモットーにしていて、10 年連続でキッズデザイン賞を受賞しているんです」

BB さんには、小学生の子どもが 2 人います。

「子ども部屋の設計が本当によく考えられているんですよ。収納がたっぷりあって、勉強机のスペースも最初から確保されていて。キッチンからリビングが見渡せるので、料理をしながら子どもの様子を見られるのも安心です」

対策:ホームページで施工事例を確認する

ハウスメーカーのホームページには、必ず「施工事例」が掲載されています。

以下の点をチェックしましょう。

【施工事例チェックリスト】

- ☒ 自分が希望する坪数の実績はあるか？
- ☒ 自分が希望する間取り(平屋、2 階建て、3 階建て)の実績はあるか？
- ☒ 自分が希望するデザインに近い事例はあるか？
- ☒ 自分と似た家族構成の事例はあるか？
- ☒ 受賞歴はあるか？(キッズデザイン賞、省エネ賞など)

実績が豊富なハウスメーカーほど、安心して任せられます。

4-2. おすすめローコストハウスメーカーTOP8

ここからは、坪単価が安い順に、おすすめのローコストハウスメーカーTOP8 を紹介します。

【1 位】 タマホーム:坪単価約 61 万円

【一押しポイント】上質な国産材を使った木造軸組工法

タマホームの最大の特徴は、国産材使用率 74%という圧倒的な数字です。

「ローコスト住宅なのに、国産材をこんなに使えるの?」と驚くかもしれません。

その秘密は、木材の産地と直接契約し、中間マージンをカットしているからです。

おすすめ商品:「木麗な家」

タマホームの主力商品「大安心の家」と同等の性能を保ちながら、設備のグレードを調整することで価格を抑えたプランです。

【特徴】

- ・ 長期優良住宅に対応
- ・ 耐震等級 3(最高等級)
- ・ 省令準耐火構造

「ローコストでも、性能は妥協したくない」という方におすすめです。

保証内容

- ・ 地盤 10 年保証
- ・ 住宅瑕疵担保責任保険
- ・ シロアリ 10 年保証
- ・ 最長 30 年保証(長期優良住宅の場合は最長 60 年)

実際の利用者の声

「低予算ながら、ある程度満足のいく住宅ができた。小さな気になる点もすぐ答えてくれたり、調べてくれたりして感じがよかった」(神奈川県・20 代男性)

「アフターサービスの対応が遅かった。もう少し早く対応してほしい」(北海道・30代男性)

【2位】 アイダ設計:坪単価約 74.9 万円

【一押しポイント】狭小地設計が得意

アイダ設計の強みは、狭小地でもリーズナブルに建てられることです。

都市部では、土地が狭く変形していることも多いですよ。そんな土地でも、アイダ設計なら空間を有効活用した設計が可能です。

おすすめ商品:「BRAVO 2」

1,000 万円以下で住宅を建てられるプランです。

【特徴】

- ・ 断熱性能と耐震性能を両立
- ・ 機能性に配慮した標準仕様
- ・ 追加費用なしでも満足度が高い

「とにかく予算を抑えたい」という方におすすめです。

保証内容

- ・ 最長 35 年保証

実際の利用者の声

「こちらの予算内で最善と思うプランを提案してもらい、施工もスケジュール通りに進めてくれた」(千葉県・50 代男性)

「思ったよりもよい素材を使ってしまったため、予算がオーバーしてしまいました」(静岡県・30代男性)

【3位】 アイフルホーム:坪単価約 64.7 万円

【一押しポイント】子どもに優しい家づくり

アイフルホームは、10年連続でキッズデザイン賞を受賞しています。

子育て世帯にとって、これ以上の実績はないでしょう。

おすすめ商品:「FAVO シリーズ」

12 種類のライフスタイルから、理想のプランを選べます。

【対応可能】

- ・ 平屋
- ・ スキップフロア
- ・ 二世帯住宅

自由度の高いプランです。

保証内容

- ・ 20 年間の定期点検(最長 60 年)
- ・ 完成引渡保証
- ・ 地震 10 年保証
- ・ 設備機器 10 年保証

LIXIL グループの一員として、設備機器の保証が 10 年と長いのが魅力です。

実際の利用者の声

「太陽光発電パネルが安く取り付けられた。コスパを意識しながら要望をかなえてくれた」(岐阜県・30 代男性)

「要望が伝わっていないことがあった」(広島県・20 代女性)

【4 位】 ユニバーサルホーム:坪単価約 69.1 万円

【一押しポイント】地熱床システムが標準装備

ユニバーサルホームの最大の特徴は、地熱を利用した床暖房システムが標準仕様になっていることです。

冬でも床が暖かく、足元から室内全体が暖まります。

おすすめ商品:「ラビスタ」

1 階の天井を高くすることで、開放感のあるリビングが実現できるプランです。

【特徴】

- ・ 広々とした空間でも床暖房で暖かい
- ・ 2 階は勾配天井で窮屈に感じない
- ・ 外壁材に ALC を採用し、温度調整しやすい

保証内容

- ・ 地盤 10 年保証(生涯地盤保証は条件あり)
- ・ 10 年保証(最長 30 年)
- ・ シロアリ保証
- ・ 完成保証
- ・ 25 年間の定期点検

実際の利用者の声

「アフターフォローが充実しているのが嬉しい。床暖がよかった。細かいこだわりも叶えていただき嬉しかった」(静岡県・30代女性)

「クロスの種類など、細かなオーダーができなかった」(北海道・60代男性)

【5 位】 富士住建:坪単価約 67.7 万円

【一押しポイント】完全フル装備の標準仕様

富士住建の標準仕様は、他社のオプション級の設備が最初から付いていることで有名です。

標準仕様に含まれるもの

- ・ビルトイン食洗機付き対面式システムキッチン
- ・22 インチ TV 付き浴室
- ・浴室暖房換気乾燥機
- ・エアコン
- ・カーテン
- ・防犯ガラス
- ・センサーライト

「オプション費用を抑えたい」という方には、最適なハウスメーカーです。

保証内容

- ・ 10 年保証(最長 20 年)
- ・ 2 年間の定期点検(以降有償点検)

実際の利用者の声

「完全フル装備で、エアコン、カーテンなど買わずに、すぐに住めたことと、お風呂が大きく家族で入れる点がよかった」(東京都・30 代女性)

「話したことが伝わっていないことが何度かあった」(茨城県・40 代女性)

【6 位】 アエラホーム:坪単価約 64 万円

【一押しポイント】高断熱で光熱費を抑える

アエラホームは、12 年連続でハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジーを受賞しています。

これは、省エネ性能が高く評価されている証です。

おすすめ商品:「クラージュ」シリーズ

家全体をアルミ箔面材の断熱材で包み込む「外張断熱」を採用。

さらに、壁内には吹付け断熱を施すことで、独自の高断熱住宅を実現しています。

保証内容

- ・ 20 年保証(有償メンテナンスにより永年延長可能)
- ・ 設備 10 年保証
- ・ 急なトラブル 24 時間受付

実際の利用者の声

「土地をおさえたいと急いでハウスメーカーを探していて、アエラホームが 1 番対応が早かった」(神奈川県・30 代女性)

「入居後のフォローがイマイチ」(神奈川県・30 代女性)

【7 位】 ヤマダホームズ:坪単価約 65.9 万円

【一押しポイント】災害に強い家

ヤマダホームズは、耐震・耐火性能に定評があります。

おすすめ商品:「RASIO」

カスタマイズ型の注文住宅で、予算に応じて組み合わせを選べます。

【特徴】

- ・ SxL 構法で耐震性を高める

- ・ 長期優良住宅認定を受けられれば、最長 60 年の保証

保証内容

- ・ 20 年保証(最長 60 年)
- ・ 設備 10 年保証
- ・ 24 時間 365 日コールセンター

実際の利用者の声

「契約前の打ち合わせが非常に詳細で、こちらの要望をしっかりと聞いてくれた」(静岡県・30 代女性)

「建てた後のアフターサービスが行き届いていない」(千葉県・40 代女性)

【8 位】 桧家住宅:坪単価約 86.7 万円

【一押しポイント】全館空調「Z 空調」

桧家住宅の最大の魅力は、全館空調システム「Z 空調」です。

夏は涼しく、冬は家中どこでも暖かい。しかも、省エネ設計で電気代も抑えられます。

おすすめ商品:「スマート・ワン」

豊富なプランから選択して組み合わせる「選択型(企画型)注文住宅」です。

Z 空調も標準仕様で採用されています。

保証内容

- ・ 30 年保証(最長 60 年)
- ・ 設備 10 年延長保証
- ・ ヒノキオーナーズ App
- ・ 住宅履歴書システム(作成・保管)
- ・ 住まいのコンシェルジュデスク

実績

- ・ 空調の受注数 30,000 棟(2024 年 12 月発表)
- ・ 全館空調シェア No.1(自社発表)

実際の利用者の声

「全館空調がリーズナブルに導入できる。希望通りの間取りやデザインにしてくれた」(千葉県・30 代女性)

「オプションひとつひとつが少し高いかなと感じた」(埼玉県・40代女性)

4-3. 営業担当者との相性が成功のカギ

「ハウスメーカー選びで、一番大切なのは何ですか？」

この質問に対して、実際にローコスト住宅を建てた方 100 人にアンケートを取ったところ、最も多かった答えは「営業担当者との相性」でした。

なぜ営業担当者が重要なのか

家づくりは、最低でも 3 ヶ月、長ければ 1 年以上の期間がかかります。

その間、何度も打ち合わせを重ね、細かい要望を伝え、不安を相談します。

もし営業担当者との相性が悪いと、以下のような問題が起こります。

【相性が悪いと起こる問題】

- ・ 要望がうまく伝わらない
- ・ 返信が遅く、不安になる
- ・ 専門用語ばかりで説明が分かりにくい
- ・ 押し売りされている感じがする
- ・ 信頼できない

こうした状態では、満足のいく家づくりはできません。

【実例】担当者を変えてもらって大成功

栃木県在住の CC さん(30 代・夫婦)は、最初に対応してくれた営業担当者との相性が悪かったそうです。

「質問しても、返信が 3 日後とか。しかも、『それはできません』って答えばかりで、代替案を提案してくれないんです」

CC さんは、思い切ってハウスメーカーに相談しました。

「『担当者を変えていただけませんか』ってお願いしたら、すぐに対応してくれました」

新しい担当者は、CC さんの要望をしっかりと聞き、具体的な提案をしてくれました。

「『この予算だと難しいですが、こういう方法ならできますよ』って、いつも代替案を出してくれるんです。おかげで、満足のいく家が建てられました」

良い担当者の見極め方 5 つ

では、どうすれば「良い担当者」かどうかを見極められるのでしょうか？

【チェックポイント①】返信が早いかな

質問や相談をしたとき、24 時間以内に返信があるかどうか。

【チェックポイント②】説明が分かりやすいかな

専門用語を使わず、初心者にも分かるように説明してくれるか。

【チェックポイント③】提案力があるか

「できません」で終わらず、代替案を提案してくれるか。

【チェックポイント④】話を聞いてくれるか

こちらの要望を最後まで聞いてから、アドバイスをしてくれるか。

【チェックポイント⑤】押し売りしないか

無理に契約を迫らず、こちらのペースを尊重してくれるか。

担当者は基本的に選べない

残念ながら、ハウスメーカーの営業担当者は、基本的に選べません。

最初に接点を持った人が、そのまま担当になるのが一般的です。

しかし、相性が悪いと感じたら、早めに変更をお願いすることが大切です。

「なんか合わないな」と思いながらズルズル進めると、後で後悔します。

【第4章のまとめ】

ハウスメーカーを選ぶ際は、以下の5つを必ず比較しましょう。

1. 予算内に収まるか(坪単価ではなく総額で比較)
2. 間取りや広さは十分か(将来を見据えて選ぶ)
3. こだわり条件は叶えられるか(標準仕様とオプションを確認)

4.アフターサービスと保証内容はどうか(長期的な安心)

5.得意分野や過去の実績はどうか(施工事例を確認)

おすすめのローコストハウスメーカーTOP8 は、それぞれに特徴があります。

- ・ タマホーム:国産材 74%
- ・ アイダ設計:狭小地設計
- ・ アイフルホーム:子育て世帯向け
- ・ ユニバーサルホーム:地熱床システム
- ・ 富士住建:完全フル装備
- ・ アエラホーム:高断熱・省エネ
- ・ ヤマダホームズ:災害に強い
- ・ 桧家住宅:全館空調

自分の希望と合うハウスメーカーを見つけましょう。

おわりに

ここまで読んでくださって、本当にありがとうございました。

最後まで読み進めてくださったあなたは、もう「ローコスト住宅で後悔する人」ではありません。

なぜなら、後悔する人と成功する人の違いは、「知っているかどうか」だけだからです。

あなたはこの本を通して、以下のことを学びました。

- ・ローコスト住宅が安い理由(企業努力の結果であり、手抜きではない)
- ・実際に住んでいる人の後悔・失敗事例 8 選
- ・それでもローコスト住宅を選ぶ価値がある理由
- ・ハウスメーカーの選び方と比較ポイント

これらの知識があれば、あなたは同じ失敗を繰り返さずに済みます。

ローコスト住宅は「選択肢」のひとつ

誤解しないでいただきたいのは、私は「全員がローコスト住宅を選ぶべきだ」と言っているわけではありません。

ローコスト住宅は、あくまで**選択肢**のひとつです。

- ・ 予算に余裕があるなら、高級注文住宅を選んでもいい
- ・ こだわりが強いなら、完全自由設計を選んでもいい
- ・ 時間がないなら、建売住宅を選んでもいい

大切なのは、自分に合った選択をすること。

そして、その選択を後悔しないことです。

私がこの本で一貫してお伝えしたかったのは、「ローコスト住宅が最高だ」ということではなく、「正しい知識を持って、納得のいく選択をしてほしい」ということです。

完璧な家は存在しない

もう一つ、大切なことをお伝えします。

100%満足できる完璧な家は、存在しません。

予算が 3,000 万円でも、5,000 万円でも、1 億円でも、必ず何かしらの不満は出てきます。

- ・「もう少し収納が欲しかった」
- ・「窓の位置をもう少しずらせばよかった」
- ・「キッチンをもう少し広くすればよかった」

こうした小さな後悔は、どんな家にもあります。

だからこそ、大切なのは「この妥協なら許容できる」というラインを、事前に決めておくことです。

そして、良い面に目を向けることです。

- ・念願のマイホームが手に入った
- ・家賃を払わなくていい
- ・自分の好きなようにインテリアを変えられる
- ・子どもが走り回っても大丈夫
- ・住宅ローンの返済負担が軽い

こうした「良かったこと」を数えることで、満足度は大きく変わります。

あなたの優先順位を大切に

家づくりで最も大切なこと。

それは、「他人の基準」ではなく「自分の基準」で判断することです。

- ・ 「周りの家と比べて見劣りしないか」
- ・ 「友人に自慢できるか」
- ・ 「SNS で『いいね』 がもらえるか」

こうした「他人の目」を気にしていると、満足のいく家づくりはできません。

大切なのは、「自分と家族が幸せに暮らせるかどうか」です。

年収 1,000 万円の人が 3,000 万円の家を建てるのも、年収 400 万円の人が 1,500 万円の家を建てるのも、どちらが正解ということはありません。

自分の収入に見合った、無理のない家づくりをすることが、最も賢い選択なのです。

今日から始める第一歩

「この本を読んで、知識は身についた。でも、何から始めればいいのか？」

そう思っている方も多いかもしれません。

答えは簡単です。今日から、小さな一歩を踏み出してください。

【ステップ①】気になるハウスメーカーをリストアップする

まずは、気になるハウスメーカーを 3～5 社選んでください。

- ・自分の予算に合っているか
- ・自分のこだわりと合っているか
- ・実績や保証内容はどうか

こうした視点で選びましょう。

【ステップ②】ホームページで施工事例を確認する

各ハウスメーカーのホームページには、必ず「施工事例」が掲載されています。

写真を見て、「こんな家に住みたい!」と思えるかどうか、感覚的に確認してください。

【ステップ③】資料請求をする

気になるハウスメーカーが見つかったら、資料請求をしてみましょう。

カタログやパンフレットを見ることで、より具体的なイメージが湧いてきます。

【ステップ④】見積もりを依頼する

そして、必ず複数社から見積もりを取ってください。

これが、家づくりで最も重要なステップです。

1 社だけでは、その価格が高いのか安いのか、適正なのか判断できません。

最低でも 3 社、できれば 5 社から見積もりを取ることをおすすめします。

複数社から見積もりを取ることの重要性

「でも、複数社に見積もりを依頼するのって、面倒じゃない？」

そう思う気持ち、よく分かります。

住宅展示場に行って、何社も話を聞いて、それぞれに見積もりを依頼して……。考えただけで疲れますよね。

しかし、この手間を惜しむと、後で何百万円も損をする可能性があります。

実際、複数社から見積もりを取ることで、以下のようなメリットがあります。

【メリット①】適正価格が分かる

A 社:総額 2,200 万円 B 社:総額 1,800 万円 C 社:総額 2,500 万円

こうして比較することで、「相場は 2,000 万円前後なんだな」と分かります。

【メリット②】価格交渉の根拠になる

「B 社は 1,800 万円で提案してくれていますが、A 社ではこの金額になりますか？」

こう交渉することで、値引きを引き出せる可能性があります。

実際、私の知人は、他社の見積もりを使って 100 万円以上の値引きに成功しました。

【メリット③】各社の間取りの良いところを組み合わせられる

A 社の間取りは、リビングが広くて開放的。B 社の間取りは、収納が充実している。C 社の間取りは、家事動線がスムーズ。

それぞれの良いところを組み合わせることで、**「自分たちにとって最高の間取り」**が見えてきます。

【メリット④】営業担当者の質も比較できる

- ・返信が早いか
- ・説明が分かりやすいか
- ・提案力があるか
- ・押し売りしないか

こうした点も、複数社を比較して初めて分かります。

効率的に複数社の見積もりを取る方法

「でも、複数社に見積もりを依頼するのって、めんどくさそう……」

そう思いますよね。実は、私も最初はそう思っていました。

住宅展示場に行って、何社も話を聞いて、それぞれに見積もりを依頼して。考えただけで疲れます。

でも今は、もっと簡単に複数社から見積もりを取る方法があります。

一括見積もりサービスを活用しよう

インターネット上には、複数のハウスメーカーに一括で見積もりを依頼できるサービスがあります。

【このようなサービスの特徴】

- ・ 全国 1,280 社以上の住宅会社の中から、好きなハウスメーカー・工務店を選ぶ
- ・ 「希望する間取り」「総予算」「こだわりたいポイント」を入力するだけ
- ・ 各社があなたのために、オリジナルの間取りプランと見積もりを作成してくれる
- ・ 利用料金は完全無料

提携しているハウスメーカーには、大手も地域の優良工務店も多数含まれています。

【大手ハウスメーカーの例】

- ・ 住友林業
- ・ 積水ハウス
- ・ 三井ホーム
- ・ セキスイハイム
- ・ ミサワホーム
- ・ ダイワハウス
- ・ パナソニック ホームズ
- ・ トヨタホーム

など、名前を聞いたことのある大手メーカーはほぼすべて揃っています。

実際に使った方の声

「安くて魅力的な住宅メーカーをいくつも見つけられました」(千葉県・30代男性)

「他社の見積もりを交渉材料にして、大幅な値引きを引き出せました」(埼玉県・40代女性)

「各社の間取りの良いところを組み合わせ、住みやすい間取りに仕上げられました」(神奈川県・30代男性)

忙しくて住宅展示場になかなか行けない方でも、自宅でスマホから簡単に間取りプランと見積もりを取り寄せられます。

各社の間取りプランを見比べるだけでも、なかなか楽しいものです。

安さだけでなく、間取りの提案力や誠実な対応なども比較できるため、レベルの高いハウスメーカーを見つけるのにぴったりです

↓私の運営するブログで詳細を解説しています。

[「タウンライフ家づくり」についてはコチラから](#)

最後に:あなたの家づくりを応援しています

この本を書いた理由は、ただ一つ。

「ローコスト住宅で後悔する人を、一人でも減らしたい」

その思いだけです。

家づくりは、人生で最も大きな買い物です。

だからこそ、後悔してほしくない。

「こんなはずじゃなかった」と悔やんでほしくない。

そのために、私がこれまで取材してきた数百件の事例から、最も役立つ情報だけを厳選してこの本にまとめました。

あなたがこの本を読んで、少しでも「参考になった」「自分にもできそう」と思えたなら、これ以上の喜びはありません。

あなたの家づくりが、最高のものになることを、心から願っています。

予算は限られているかもしれない。選択肢は少ないかもしれない。不安もたくさんあるかもしれない。

それでも、正しい知識と、しっかりとした準備があれば、必ず満足のいく家が建てられます。

この本が、あなたの夢を叶えるための、小さな一歩になれば幸いです。

最後まで読んでくださって、本当にありがとうございました。

あなたとご家族の未来が、明るく幸せなものでありますように。

著者：服部 遼太